



Recommended calling QRGs: 7.026/7.028, 10.118/10.138, 14.058, 18.085, 21.058/21.138, 24.918, 28.058/28.158

FEA Net: 7.026 MHz 2300UTC on Saturdays, 14.054 MHz 0800UTC on Sundays

Newsletter Editor, FEA Net Manager: Nao JO3HPM (jo3hpm@fists-ea.org)

Membership Secretary: Jean JL3SIK (join-fea@fists-ea.org)

Web administrator, QSL Manager, Newsletter E-mail Distributor: Harry JL3AMK (webadmin@fists-ea.org)

FISTS members can receive the morsEAsia via e-mail. Please email the web admin with your FISTS#.

Other members of administration: Sugi JK7UST & Manabu JE1RZR

<http://www.feacw.net/> or <http://www.fists-ea.org/> (Secondary)

日本語付録

日本語で投稿された原稿は編集部で英語へ意識して掲載しました。また英語と日本語両方で投稿してくださった方もいました。ここでは日本語原稿を掲載します。

MASA JF2PDA #15092

アマチュア無線を開局したのは昭和 54 年 1979 年です。ラジオ少年だった幼少期の頃 世界を駆け巡る電波に魅了されて免許を取得しました。後に社会にでて仕事結婚など職責に追われやむなく QRT しました。約 30 年間の空白ブランクがございます。現在では移動中心に CW 電信の世界にまた自分の腕を磨くために今回 FISTS EA メンバーに加えて頂きました。地球のどこかの同じ同士メンバーの皆さんと QSO 出来る事を夢見てこれからも CW を楽しみたいと思っています。いつかどこかで 聞こえてましたら コール下さい。楽しみましょう(笑)

cq cq cq de JF2PDA... pse

MASA JA1CPN #15095

こんにちは。JA1CPN Masa です。私は、長らくの QRT を経て、約 5 年前から東京郊外の現住所から QRV するようになりました。現在は TS-590 と自宅ベランダに設置した、デルタループ+ATU にて HF のオールバンドに出ています。最近では、ローパワーと簡易なアンテナでも DX と QSO できる CW の魅力にとりつかれています。まだまだ駆け出しですが、これから CW の運用技術を向上させたいと思っています。皆さんとお空でお会いすることを楽しみにしています。

「パラオへ」MASUMI JA3AVO #15029

7 月 21~24 日、夏休みで一時帰国中の娘一家とパラオに出かけます。大人 3 人、子ども 3 人の民族大移動。Palau Pacific Resort (PPR) のレンタルシャックのある部屋を予約しましたので、ハムの運用も行う予定です。

取得したコールは、私が T88MB、XYL (JH3PBL) が T88MP、孫の翔太 (W7AED) が T88SR。娘も W8AVO のコールは持っているのですが、翔太の試験に付き添って行って、ついでに受けたという“インスタントハム”なので、運用の意思はなく「親子 3 代」の運用は実現しませんで

した。私たち夫婦と翔太のコンビは昨年 7 月にもカンボジアに行き、XU7AVO、XU7PBL、XU7AED としてオンエアしています。

高級リゾートの PPR は、普通なら贅沢で泊まれません。が、幸い貯まっていた UA マイレージを利用して、4 人分のコンチネンタル航空のチケットを確保できたので、決行することにしました。マイレージは、いざという時に思いどおりには利用できないので、何年も放っておくと結構貯まるものですね。今回はマイレージで予約が可能な 10 か月前にフライトを確保するという長期作戦でした。

ハムの運用が主目的なら、パラオには格安の VIP ホテルがあります。こじんまりとしたホテルで、無線室はオーナーのジョージさんが管理しています。無線室の利用は無料というのがありがたいですね。パラオの免許は 1 年間で有効なので、機会があれば VIP ホテルで、もう一度ゆっくりと運用したいものです。

追記。OP3 人は“T8XO”でオンエアします。

「QRP トランシーバーコレクション」YASU

JG3TSX #15089

#1482、JG3TSX、Yasu です。

私は基本的に QRP 運用です。アパマンなのも理由の一つですが、QRP は奥深く、手のひらに乗るような小さなトランシーバーで国内、コンディションが良ければ世界とも QSO 出来ます。そんなトランシーバーでの QSO は又格別で感動大です。私は開局当時から QRP に興味があり、最近特にはまっています。

この数年、その QRP トランシーバーをコレクションするようになりました。QRP トランシーバーは余計な物が付いていなくて、シンプルですが CW の交信にはあまり必要ありません。短点と長点が分かれば良いのですから。最低 RIT があれば良いと思っています。しいて言えば、ATU とエレキー内蔵であれば尚良しです。

もう、製造終了とかで新品は手に入らない物はオークション等で少しでも程度の良い物を探したりしています。現在、そのシンプルで FB なトランシーバーも 9 台になりました。9 台の内訳は、以下です。

Rig	Bands (m)	Mode	Power (W)
A & A Engineering K9AY QRP Morse Code CW Radio Kit	20	CW	5
A & A Engineering K9AY QRP Morse Code CW Radio Kit	30	CW	5
Elecraft K1-4	40/30/20/15	CW	5
INDEX LABORATORIES QRP PLUS	160~10	CW/SSB	5
Oak Hills Research OHR 100A	20	CW	5
Oak Hills Research OHR 100A	40	CW	5
Oak Hills Research OHR 400	80/40/30/20	CW	5
Small Wonder SW-40	40	CW	2
WILDERNESS SIERRA	80/40/30/20/17/15	CW	2

9台の内、中古で手に入れたのは7台。Elecraft K1-4とSmall Wonder SW-40はキットからの製作。自作はあまり得意ではないので時間がかかります。この9台にOak Hills ResearchのDD-1 Digital Dialを3台とQRP用オートチューナー、Z-817。

しかし、沢山あっても均等にそれを使ってやれないので、お気に入りメインで使うことになります。お気入りは、やはり、Elecraft K1-4。続いて、OHR 400とWILDERNESS SIERRA、Small Wonder SW-40、QRP PLUS。結局、どれもとても好きです。その時の気分で使い分けていますが、完成度の高いElecraft K1-4がどうしても、メインになってしまいます。

もう少し、増えそうです。近い内(6月末から7月の初め)に後、3台入手確定しています。その3台は、以下です。

Rig	Bands (m)	Mode	Power (W)
MFJ 9040 QRP CW Transceiver	40	CW	5
Oak Hills Research OHR 500	80/40/30/20/15	CW	5
TEN-TEC R4020 TWO BAND CW QRP TRANSCEIVER	40/20	CW	5

アンテナが貧弱で、80mは10Wから20Wでも苦しいので、40mから15mのQRPトランシーバーを物色しています。他には、Elecraft KX-1、Ten Tec 1340(40m)、MFJ-9017(17m)に注目しています。

しかし、目の前にそんな小さなRIGがあるだけで癒されます。これはもう、QRP無線機オタクですね。世界中には沢山素晴らしいQRPトランシーバーがあり、ネットで色々探索しています。いったい、何台コレクション出来るのでしょうか。まだまだ、私のコレクションは当分続きそ

うです。

小さなRIG、小さな電波で広い全世界へ。VIVA QRP!!!。私の弱い下手なCW聞こえていましたら、是非、お声がけを。

「GN907A-P購入記」TAKA JF1DKB #15069

GHD社製のフルオートバグキー GN907A-P(-Pは光センサータイプ)を購入しましたので未熟者ながら使用感等を報告させていただきます。

ハイモンドのバグキーBK-100の中古を手に入れて打ってみたところ、長点を連続してきれいに打つのが難しく、You Tubeで動画の検索をして数名の上手なOMさんの打ち方をまねて練習していました。

今年になり、突然GHDのホームページから長点、短点自動のフルオートバグキーGN907Aが消えて無くなりました。使ってみたく気持ちはありましたし、苦手な長点の連続も克服できるなあと思っていた程度で、とても高価な製品で購入なんて考えもしていませんでした。

ただGHDのホームページを巡回するたびに不思議なもので「手に入らない、でも欲しい」に変化し、問い合わせたところ在庫はなく、割高にはなるが1本だけでも再生産できるというので悩んだ挙句に不要なRig等を相当数処分し代金を捻出して注文しました。

購入に際してGHDの氏家さんから以下のようなアドバイスがありました。

「キーは楽器にたとえられますが、GN907Aは難しい楽器といえます」

「このキーを直ぐに使うのは大変に難しいです。少なくともエレキーとバグキーに精通した方がそれなりに練習しますと使えます」エレキーには短点メモリー、長点メモリースペースメモリーがありツマミのチョン押しでも綺麗な符号がでます。バグキーは符号が出終わるまでツマミをきちんと押ししていないといけません

この違いがエレキーは得意だがバグキーは上手くない理由です。」

「ましてGN907Aは長点も自動ですから、なおさら難しくなります」

以上のようにバグキーを使用したことがあるOMさんから理解が出来る常識かなと思います。しかし最後の「ましてGN907Aは長点も自動ですから、なおさら難しくなります」の1文が実物を触ってみるまで理解できていませんでした。長点が自動だから購入を検討しているのに全く逆に難しくなるなんて？

おさらいですがモールス符号の構成は下記のようなかと思えます。

- 1) 長点の長さは短点の3倍。
- 2) 1符号を作る長点、短点の間隔は短点に等しい。
- 3) 2符号の間隔は短点の3倍。(長点の長さに等しい。)
- 4) 2語の間隔は短点の7倍に等しい。

半自動の通常のバグキーは、短点が自動です。連続した短点以外は自分で組み立てていかなければなりません。

- ① 1符号の中の短点から長点やその逆に長点から短

点を打つ場合に自分で1短点分の間隔をあける。

② 3短点分の長さの長点は自分できちんとレバーを押さえ続ける。また連続した長点の場合は間隔を1短点分あける。

③ 2符号の間隔は短点の3倍をあける。

④ 2語の間隔は短点の7倍をあける。

フルオートバグキー GN907A-Pは半自動と比較すると②の後半を手抜き出来る。

なんと初心者に優しいkeyなのだろうと思っていました確かに、そのことに間違いはありません。

ただ、氏家さんの「GN907Aは長点も自動ですから、なおさら難しくなります」には、やはり理由がありました。

半自動の場合は長点が多少長くなっても、それほど大きな問題ではありません。ただ、長い長点が出るだけです。しかし、長点が自動のフルオートでは半自動の感覚で長点をうっかり伸ばしてしまうと自動で次の長点が出てしまう。(レバーを押さえ続けている時間に依存するので長点よりも短い線?)これを、出ないように長点(3短点分)をきちんと押さえながら1短点以内にレバーから手を離さなければならない。注意していても稀にミスが出てしまいます。これが最大の練習ポイントか?

「このキーを直ぐに使うのは大変に難しいです。少なくともエレキーとバグキーに精通した方がそれなりに練習しますと使えます」には、それなりの理由があったのです。フルオートの攻略には半自動で正確に連続した長点を打てるスキルが求められると思います。

ただ、氏家さんがおっしゃるようにGN907Aを楽器とするなら、もっともって難度の高い楽器の演奏を子供たちでさえこなしてる!私のように楽器も弾けず運動神経も低い場合は反復練習でのみ克服できるかなと思います。難しい日本語を聞いて解読し即座に答えを発声する能力を身に付けた自分なら出来ると思っています。また、エレキーでは当たり前ですがGN907Aできれいな符号が出せると単純にうれしいです。バグって分からない位、きれいに打てたらって!(願望ですが!)

文章で書くと分かりにくいと思いますが、モールスのリズム感に慣れていれば、意外とスムーズに打てると思います。私のような初心者でも打てるスピードに対応しています。

下記は、購入に至ったGHDの氏家さんの言葉。

「はっきり言ってGN907Aは実用的では有りません。実用的にはエレキーの方がはるかに勝っています。和文をこのキーでするとあなたのお使いのキーは何ですかと聞かれます。エレキーとは一味違う味があります。そこがこのキーの良さでもあります。」

私自信GN907Aが無くなるのは断腸の思いです。

ここまで、使いこなせるようになりたいなと思っています。でも、本当に不思議ですよ!きちんと調整すると長点が正確に連続して打てるって!(調整説明用の動画約7分)を氏家さんが送ってくれたので助かりました。)

では、73

JF1DKB/高野

<http://eagle810.cocolog-nifty.com/blog/ghdgn907ap/index.html>

“MY CW LIFE (1)” MASA JJ1IZW #15026

【復帰】

時はちょっとさかのぼること、約5年前の2005年の2月に、とある理由で20年弱勤めた会社の転職を決意し、2005年7月に新しい会社に移った。この時、既に43歳。この転職が無線復帰のきっかけとなりました。

【無線経歴】

少し私のこれまでの無線歴の紹介を。

中学2年の夏の1976年にRJX-601にて開局し日中はAMで中/遠距離、夜は、ローカル局とFMでラグチュー。その頃YLさんも当時は多く、固定電話で女の子とお話すると内容は親に聞かれるし電話料金もバカにならなく、親に内緒で「女の子とお話」出来る無線は、物凄く私にとっては有難いものでした。Hi

その後、一時はかなり有名になった「ずってるクラブ」という50MHzで運用で3000m級の山岳移動を専門にするクラブに属し山頂からの猛パイルの快感を覚える。

その後、近所のアパートの新婚さん宅にてラジカセIが発生し結局直せず、自宅からの50MHzのQRVを断念して、自宅からは21MHzオンリーでQRVする。RIGはTS-311(10W)とMX-15(0.3W)でした。しかし、「ずってるクラブ」での50MHz移動運用は就職するまで続けていました。その後、高校生の終わり頃、大型台風時に21MHzのフルサイズのアンテナは隣家屋根上に倒壊し、21MHzも止めることになってしまった。そこで、今度は、430MHz FMに移りローカルラグチューのみとなっていき、その後、就職して実家を離れてからローカルとも疎遠になりローカルラグチューのQSOは非常に回数が減り、さらに、携帯電話やインターネットの普及により無線自身の存在価値が私の中では段々消えていってしまった。

それでも、5年で更新の無線局免許は切らさず自動車には、430MHz FM機を積んで私の他の趣味であるモーターサイクルのオフロードレース活動で無線の免許を持っている仲間と車で移動中に連絡する程度には使っていました。

【CWデビュー】

話は戻り、転職を決めた際にそれまで忙しく働いていたのだが、前の会社を辞める前の約1ヶ月弱、時間に余裕が持てる日々があった。この時、通勤帰りの道を歩いていたら突然、無性に家からQRVする無線生活がしたくなった。それも当時は、電話級免許だったので無性にモールス通信(CW:以降CWと称する)での復帰がしたかった。何故か、妻に「CQCQ～」や交信内容が聞かれるのが嫌で(今は、嫌だと思わないが)とフーンでなくCWで交信したかったのだ。

CW運用ができる3アマの免許を取得しようと情報を得る為に帰ってから直ぐ本屋に行き久しぶりにCQ誌を買った。そして分かった事は、その当時であと数ヶ月で3アマ試験からモールスの受信実技試験が無くなってしまったということを知った。CWでの交信を目指すのにCWの実技試験無しで3アマを取るということは私の中ではどうしても許されなくどうしても実技試験のある内に3アマの資格を取得したかった。さらに調べると講習会での取得

は、申し込み期限の関係から時既に遅い状況だったので国家試験しかなくその国家試験も申し込み期限から8月のハムフェア会場横での臨時国家試験とその次は最終の9月試験の2回しか無く非常に切羽詰った状況であることになった。その時点で2005年の6月の中旬であった。

兎に角、その日からインターネット上から3アマ試験の過去問題を収集して工学と法規の再勉強し、さらにモールス符号を覚える事も同時にしなくてはならなかった。幸い工学と法規は、過去問題では、直ぐに合格点ラインまで達したので一安心。

しかし、元来ノロマである私は、どうしてもモールス符号が中々覚えられない。音感法のCDでの特訓を1週間続けモールス符号漬けにしたが、どうも進まないのである。そこで、インターネットにてモールス符号の覚え方をコツみたいな事を探していたら、合調法なのだが従来の合調法は語呂の最初に発音する音(語頭音)が符号と同じですが、この覚え方は語呂の最後の発音が符号と同じであり、この覚え方はその内容を読めば読む程、色々な面で優位なので私はこの新しい合調法にてCW符号を覚えました。音感法CDで1週間練習しても全く進まなかったのですが、この新しい合調法で私はたった2日間にて全ての符号をマスターしさらに直ぐに国家試験の受信スピード25文字/分は遅く感じる程で40~50文字/分がちょうど良い感じで逆に国家試験の遅いスピードに慣れる方が大変だった位です。

この新しい合調法での詳しい内容は、私が所属するCWクラブの「A1Club」のHP上の「その他の資料」のところにありますので、どうしてもCW符号自身が覚えられないという人は一度試されてみて下さい。

さて、私は、運よく8月のハムフェア会場の横で行われる臨時国家試験に合格することができ、直ぐに埃まみれになっていたTS-311を出してきてさらに21MHzのV-DPをアルミパイプで作ってベランダからあげてワッチしてみました。SSBは、まあまあ聞こえてくるのですが肝心のCW交信がほとんど聞こえてきません。それとTS-311とMIZUHOのMX-15SがどうもQRHが激しいし、CW用フィルター等も無く現代でのCW交信では使うのはビギナーでは難しいということにも気がつき、急遽新しい無線機買う決意をしました。お金にあまり余裕がなく一番手っ

取り早いのがHF~430 Mhzまで使えるFT817NDでした。最大5WのQRP機ですがインターネット上での評価はかなり高いので直ぐに家近くの無線ショップに行きFT817NDを注文しそれにて、無線局免許変更届けも出しました。また、コンディションの関係から21MHzだけでは、どうもCWERが少なく、7MHzや3.5MHzに出れるような環境でないとNGのようでアンテナも3.5~430MHzまで出れる既製品を揃え、ベランダから足場パイプ4mにてアンテナを上げました。そして、HFでは銀座通りと言われる7MHzをワッチしてみるとCWが沢山聞こえてきます。これでやっとCWデビューができると思った。この時、2005年9月初旬。ここから変更された無線局免許が来るまでの間、SWLや送信練習そしてラバースタンプQSOの模擬練習等をした。しかしながら、想いと現実とは別でSWLの段階で、受信がかなり難しい。試験と受信と実際の7MHzで行われている交信での受信はかなりのギャップを感じた。何故ならQRM/QRN/QSBが伴いさらに50文字/分より速いスピードで皆さん交信されておられる。CWにてQRVできる無線局免許状が確か9月21日頃に来てその日の内にCWデビューしようと思いましたが、あまりの緊張とスキルの無さで呼ぶことすらできず悶々と一日を過ごしてしまった。

そこでインターネット上で見つけたのですが、「A1Club」というクラブ組織があり、そこではCWデビュー者向けにスケジュールを予め組んで、ゆっくり打鍵に付き合ってくれ、さらに間違ってもこちらの状況が分かっているのでもいつでも中止して、430MHzのFMやE-Mailまたは電話で連絡を取りながらCWデビューのお手伝いを無償でしてくれるというプロジェクトチームがある。会員外でもOKなのです。もうそこをお願いするしかないと思い、申し込んでみた。すると、3連休ということもあってか直ぐに返事がきて、さらに、明日にでもどうか?という内容のE-Mailが来ました。私も、即答で「明日お願いします」というE-Mail出し、2005年9月23日の夕刻に7MHzにてCWデビューをすることができました。相手の方は近くにお住まいなので交信後に430MHzのFMにて「反省会交信」みたいな事もして頂いて非常にラッキーなデビューとなりました。

(続く)